

# 大雨に関する農作物の栽培管理について

平成22年7月14日  
農業技術課

## 1 共通

- (1) ほ場の周囲等に明きょ等の排水対策を講じる。
- (2) 雨が止んでも河川の増水や土砂崩れ等の恐れがあるため、長野地方气象台等による最新の気象情報や土砂災害警戒情報に留意し、身の危険を伴うほ場見回り、作業等は極力避ける。
- (3) 病害の薬剤防除を実施する際は、必ず使用農薬の農薬登録情報を確認する。また、農薬散布後、薬液が乾燥するまで(2～3時間)に降雨がないよう、天候を見極めて散布を行う。  
なお、<http://www.bioweather.net/rain/amedas0.htm>等で雨雲の状況は確認できる。  
以下に記載する農薬の剤名は、本日付の情報による。
- (4) 長雨で圃地が柔らかくなっているため、スピードスプレーヤ等を操作する際は横滑りや転倒に注意する。

## 2 作物

- (1) 水稻
  - ア 浸水、冠水した水田は、速やかに排水する。
  - イ 泥流により植物体が損傷を受けた場合は、病害が発生することがあるので、農薬使用基準に留意して殺菌剤の散布を行う。
  - ウ いもち病の好適感染条件が整っているため、常発地帯では確実に防除を行う。
- (2) 大豆  
は種時から生育期の湿害は、その後の大豆の生育に大きく影響する。このため、ほ場に設置した額縁明きょや排水溝を活用し、停滞水は速やかに排水させる。特に、明きょや排水溝が排水路に接続しているかを確認する。

## 3 果樹

- (1) 共通
  - ア 定期防除の散布日に降雨が予想される場合は、予定を早めて散布する。
  - イ 連続した降雨により防除効果が低下すると考えられるため、散布日以降に雨が続く場合は、次回までの防除間隔を10日程度に短縮する。
- (2) りんご
  - ア 明きょ等、排水対策を徹底する。特にわい性台木樹は根の障害を受けやすいので早急に排水対策を行う。
  - イ 斑点落葉病、炭そ病等の果実腐敗性病害防除が必要となる。ストロビルリン系(ナリアWDG、フロントフロアブル、ストビードライフフロアブル)、オキシラン、有機銅剤等を使用する。
  - ウ 日照が不足気味となっているので、徒長枝の間引きや枝吊り、誘引、支柱立てなど夏季管理を行い、日照の有効利用を図る。併せて薬剤防除の死角を解消し、薬剤が樹全体にムラなくかかるようにする。
- (3) もも
  - ア ももは、湿害の影響を受けやすいので、明きょ等の排水対策を徹底する。
  - イ 果実腐敗病対策として、早生種、中生種にはE B I剤を、晩生種にはホモブシス腐敗病対策も併せてベルコート剤等を使用する。
  - ウ 支柱立て、枝吊りを徹底し、受光態勢を整え、着色等の品質確保を図る。
  - エ 曇天が続くと着色不良が懸念されるので、過熟果とならないよう適期収穫を心がける。また、反射シートや摘葉により今後の着色促進に努める。
- (4) なし
  - ア 輪紋病、黒斑病等の防除のため、有機銅、ストロビルリン系、ベルコート剤等を散布する。
  - イ 明きょ等の排水対策を行うとともに、新梢管理で日照の有効利用を図る。

#### (5) ぶどう

- ア ベと病が発生している。また、晩腐病が心配されるので、薬剤防除は2週間間隔を徹底する。
- イ 袋かけが済んだぶどうでは、べと病等の防除のため、銅水和剤、ランマン、ホライズン剤等を散布する。
- ウ 無袋のぶどうについては、晩腐病も心配されるため、ホライズン剤等を散布する。なお加工ぶどう等汚れてもよい品種は、ボルドー散布の効果が高い。
- エ 防除間隔が開いている場合は、袋かけ前に防除を行う。ただし、収穫前日数には注意する。
- オ 降雨が続く袋かけ作業が遅れているが、晴れ間をみて袋かけが遅れないようにする。
- カ 無核品種はこの時期の降雨が長引くと、果実肥大が促進され、着色が遅れる傾向となりやすい。明きょ等の排水対策を行うことや、新梢管理で受光態勢を整備し、適正着房量を厳守することで正常な成熟を促す。裂果しやすい品種は特に徹底する。
- キ 副梢の切除、摘心等新梢管理を徹底し、枝梢の充実と防除効果の向上を図る。

#### (6) ネクタリン

E B I 剤等を使用して、果実腐敗病を防除する。

#### (7) 日本すもも・プルーン

灰星病防除のためE B I、ロブラール、ベルコート剤等を散布する。

### 4 野菜

- (1) 可能な限り、ほ場外への早い排水を心掛ける。
- (2) 雨が続き、湿度が高く病害が蔓延しやすい気象条件にあるので、農薬使用基準に留意し、雨間をみて殺菌剤の散布を行う。
- (3) 現在、レタス類には細菌性病害（軟腐病、斑点細菌病、腐敗病）が、また、はくさい・キャベツ類には昨年多発した黒斑細菌病の発生が見られる。昨年多発した地域では、特に急増しやすい条件にあるため注意する。
- (4) 表土が乾いたら浅く中耕を行い、土壌の通気性を高める。
- (5) 冠水、浸水を受けた野菜は排水後、直ちに茎葉についた泥等を洗い流すとともに、農薬使用基準に留意して殺菌剤の散布を行う。
- (6) 生育状況を見ながら、速効性の追肥、葉面散布を行う。
- (7) スイートコーン、アスパラガス等の倒伏したものは、むやみに引き起こすと損傷が激しくなるので、様子を見る。

### 5 花き

- (1) キクの白さび病、リンドウ、ユリの葉枯病等の露地品目では病害の発生が多いので、降雨の状況をみて雨間に予防散布を心掛ける。
- (2) 大雨や長雨による湛水に備え、露地では排水溝を設置する等湿害対策を実施する。
- (3) 強い雨でたたかれて倒伏したものは、早めに起こし、茎の曲がりを防ぐとともに、茎葉の保護と病害防除のために、農薬使用基準に留意して殺菌剤の散布を行う。
- (4) 日照不足で軟弱徒長気味の生育となっているため、施設栽培での遮光等は天候を見ながら実施する。
- (5) 浸水または滞水しているほ場は早急に排水を図る。ほ場に高低差がある場合は、排水溝を設ける等の対策を行い、停滞水をなくすよう努める。ハウスでも周囲からの浸水によって湿害を受けることがあるので、ハウスの周囲に排水溝を設け、ハウス内への浸水を防ぐ。
- (6) 雨後に表土が乾いたら軽く中耕し、土壌の通気をよくする。なお、根に損傷を受けている恐れがあるので、生育が回復するまで施肥や深い中耕を控える。また、泥跳ねによる病害や生育不良が起きやすいので、泥跳ねの防止対策（マルチ・敷きワラなど）を行うとともに、薬剤の予防散布とあわせて洗浄を行うようにする。

## 6 菌 茸

- ( 1 ) 浸水した施設の電気設備は、起動前に十分な点検を行い、漏電事故が発生しないよう注意する。
- ( 2 ) 浸水した施設で収穫できるものは、早めに収穫、包装する。
- ( 3 ) 浸水した培養、発生、生育物は速やかに施設外へ搬出し処分する。
- ( 4 ) 浸水した施設は、空にして水で泥等を洗浄する。
- ( 5 ) 洗浄後は、除菌剤 ( 0.1 ~ 0.05% 次亜塩素酸ナトリウム ) を散布し、乾燥する。オゾンガス発生装置がある場合は、オゾン処理方法に従って除菌する。
- ( 6 ) 次亜塩素酸ナトリウム散布直後の培養基の搬入は、発生不良となる場合があるので十分換気をしてから搬入する。

## 7 畜 産

- ( 1 ) 畜舎周辺の排水を図る、汚泥除去に努める。
- ( 2 ) 伝染性疾病や衛生害虫の発生が危惧されるので、消石灰等を畜舎や堆肥舎のまわりに散布して乾燥を図るとともに、消毒車等により徹底した消毒、防除を行う。
- ( 3 ) 湿度が高いと飼料の変敗がおきやすいので、飼槽の状況を良く観察し、残った飼料は早めに掃きだす等、清潔にして乾燥を図る。
- ( 4 ) 土砂が著しく付着した粗飼料は、給与をとり止める。
- ( 5 ) 冠水、浸水した飼料畑は、排水溝を設け早期排水に努める。
- ( 6 ) 湿害が見られる牧草類は追肥を行い草勢の回復を図る。
- ( 7 ) 生育中の青刈飼料作物で倒伏し、回復の見込みのないものを刈取給与する場合は、硝酸塩中毒の恐れがあるので給与量に注意する。